

分野名	成人	科目名	成人看護学概論	
単位数	1	授業時間数	30	
開講年次	1	開講期間	通年	
担当教員	専任講師			
担当教員名				
目的	心身の発達と生活の視点から成人期にある対象を理解し、健康の保持・増進、健康障害に応じた看護を実践するために必要な基礎的知識を身につける。			
目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 成人の成長発達の特徴を述べる。 2. 成人期の健康と生活の特徴を述べる。 3. 成人の特性や能力に応じたアプローチを述べる。 4. 成人看護の役割と機能を述べる。 5. 成人期の健康問題の特徴と看護について述べる。 			
成績評価の方法と基準	※成績評価については、各方法が評価全体に占める割合(%)を示す 単位修得試験100%			
使用テキスト・教材	系統看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学総論 医学書院 系統看護学講座 専門Ⅰ 臨床看護総論 医学書院			
履修にあたっての留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・授業内容のテキストを呼んでくる。 ・毎回授業内容を振り返り、学びをまとめる。 ・グループワークは自己の問題として考え、積極的に参加する。 ・授業内での国家試験過去問題について学びを深める。 			
No	学習内容	学習方法	担当教員	担当教員名
1.	1. 成人看護の対象 1) 成人の成長と発達	講義	専任講師	
2.	(2)成人の発達課題の特徴と家族の発達課題	講義	専任講師	
3.	(3)成人の自己概念	講義 グループワー	専任講師	
4.	2) 成人の生活の特徴 (1)成人を取り巻く環境	講義	専任講師	
5.	(2)ライフスタイルの特徴	講義	専任講師	
6.	(3)家族形態の変化、家族機能	講義	専任講師	
7.	2. 成人の特性や能力に応じたアプローチ 1) アンドラゴジー	講義	専任講師	
8.	3) 倫理的判断と意思決定 4) 家族支援	講義 グループワー	専任講師	
9.	3. 健康増進・疾病の予防 1) ヘルスプロモーション	講義 グループワー	専任講師	
10.	(3)主体的な健康行動のための支援と環境づくり (4)看護の場と活動	講義 グループワー	専任講師	
11.	4. 成人に特有な健康問題 1) 成人の健康状況	講義	専任講師	
12.	2) 健康問題の特徴 (1)職業に関する健康障害と予防	講義	専任講師	
13.	(2)生活習慣に関連する健康障害と予防	講義	専任講師	
14.	(3)ストレスに関連する健康障害と予防	講義 グループワー	専任講師	
15.	単位修得試験		専任講師	
16.				

分野名	成人	科目名	成人看護学方法論Ⅰ	
単位数	1	授業時間数	30	
開講年次	2	開講期間	通年	
担当教員	専任講師、兼任講師			
担当教員名				
目的	危機状態にある成人及び手術を必要とする成人の看護を実施するための基礎的知識・技術・態度を身につける。			
目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 生命の危機状態にある患者と家族を理解し、回復促進のための援助を述べる。 2. 生命の危機状態に応じた技術を経験する。 3. 手術・麻酔による侵襲を理解し、観察の重要性を述べる。 4. 早期回復に向けて合併症予防の援助について述べる。 5. 手術を受ける患者の心理を理解し、不安緩和のための援助について述べる。 6. 手術を受けた患者の創傷治癒・促進に必要な援助について述べる。 7. 手術を受けた成人期の患者の患者の役割・価値観を配慮し、尊重した態度を表現する。 			
成績評価の方法と基準	※成績評価については、各方法が評価全体に占める割合（％）を示す 単位修得試験100％			
使用テキスト・教材	<ul style="list-style-type: none"> ・系統看護学講座 別館 救急看護学 医学書院 ・系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論 医学書院 ・系統看護学講座 専門Ⅱ 消化器 成人看護学⑤ 医学書院 ・系統看護学講座 専門Ⅱ 脳・神経 成人看護学⑦ 医学書院 ・成人看護学 成人看護技術 南江堂 			
履修にあたっての留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・予習として学習内容に該当するテキストを読んで授業に臨む。 ・復習として授業内容を振り返り、学びを自分で整理しまとめる。 ・授業には積極的に参加する。 ・課題は積極的に取り組む 			
No	学習内容	学習方法	担当教員	担当教員名
1.	生命の危機状態にある成人の特徴と看護	講義	兼任講師	
2.	一次心肺蘇生法	講義	兼任講師	
3.	意識障害をきたす疾患と看護	講義	兼任講師	
4.	意識障害のある対象への看護	演習	兼任講師	
5.	手術を必要とする成人の特徴と看護	講義	専任講師	
6.	手術前の看護	講義	専任講師	
7.	手術中の看護	講義	専任講師	
8.	手術侵襲	講義	専任講師	
9.	手術後の看護	講義	専任講師	
10.	手術後の看護（消化器手術のドレーン管理）	講義	専任講師	
11.	創傷治癒促進のための援助	講義	専任講師	
12.	消化吸収障害のある成人の看護	講義	専任講師	
13.	頭部疾患術後の看護 頭部ドレーン・胸腔ドレーン	講義	専任講師	
14.	状態に応じた救急処置と看護	講義	専任講師	
15.	単位修得試験			
16.				

分野名	成人	科目名	成人看護学方法論Ⅱ	
単位数	1	授業時間数	30	
開講年次	2	開講期間	通年	
担当教員	専任教員、兼任講師			
担当教員名				
目的	生活行動に障害のある成人の看護を実践するために必要な基礎的知識・技術・態度を身につける。			
目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 障害受容にむけた看護を述べる。 2. 自立機能の維持・回復に向けた援助を述べる。 3. 生活行動に障害のある成人とその家族の不安や苦痛緩和の援助を述べる。 4. 社会復帰過程におけるコ・メディカルスタッフとの連携・調整の重要性を述べる。 5. 生活行動に障害のある成人の役割・価値観を配慮し尊重した態度で表現する。 			
成績評価の方法と基準	<p>※成績評価については、各方法が評価全体に占める割合(%)を示す</p> <p>単位修得試験100%</p>			
使用テキスト・教材	<p>系統看護学講座 専門Ⅱ 運藤器 医学書院 系統看護学講座 専門Ⅱ アレルギー 膠原病 感染症 医学書院 系統看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学総論 医学書院 成人看護学 成人看護技術 南江堂</p>			
履修にあたっての留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・授業内容のテキストを読んでくる。 ・毎回授業内容を振り返り、学びをまとめる。 ・授業内での国家試験過去問題について学びを深める。 ・体験学習の事前準備をし、積極的に参加する。 			
No	学習内容	学習方法	担当教員	担当教員名
1.	1. 生活行動に障害のある成人の看護 1) 障害を持ちながら生活する人を支援する看護の特徴	講義	専任講師	
2.	3) リハビリテーションの特徴 (1) 日常生活動作の改善や再獲得に向けての援助	講義	専任講師	
3.	4) 障害受容へ向けての看護 (1) 障害受容の段階に応じた援助	講義	専任講師	
4.	1. 生活行動に障害のある成人の看護 3) リハビリテーションの特徴	講義	兼任講師	
5.	1. 生活行動に障害のある成人の看護 3) リハビリテーションの特徴	講義	兼任講師	
6.	2. 自立機能の維持・回復に向けた援助 1) 骨折のある成人の看護	講義	専任講師	
7.	2. 自立機能の維持・回復に向けた援助 1) 骨折のある成人の看護	講義	専任講師	
8.	2. 自立機能の維持・回復に向けた援助 2) 脊髄に損傷のある成人の看護	講義	専任講師	
9.	2. 自立機能の維持・回復に向けた援助 2) 脊髄に損傷のある成人の看護	講義	専任講師	
10.	2. 自立機能の維持・回復に向けた援助 3) 運動機能障害のある成人の看護	講義	専任講師	
11.	2. 自立機能の維持・回復に向けた援助 3) 運動機能障害のある成人の看護	講義	専任講師	
12.	2. 自立機能の維持・回復に向けた援助 3) 運動機能障害のある成人の看護	講義	専任講師	
13.	4) 免疫機能低下による運動機能障害に応じた看護 (1) 免疫機能低下による心身への影響	講義	専任講師	
14.	(2) 悪化防止に向けた援助	講義	専任講師	
15.	単位修得試験			
16.				

分野名	成人	科目名	成人看護学方法論Ⅲ	
単位数	1	授業時間数	30	
開講年次	2	開講期間	通年	
担当教員	専任講師、兼任講師			
担当教員名				
目的	生涯にわたり疾病コントロールを必要とする成人の看護を実施するために必要な基礎的知識・技術・態度を身につける。			
目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 自己管理のための支援について述べる。 2. 自己管理をうながすための健康教育を実施する。 3. 疾病コントロールを必要とする成人の療養継続に必要な援助について述べる。 4. 生涯にわたり疾病コントロールを必要とする成人の役割・価値観を配慮し尊重した態度を表現する。 			
成績評価の方法と基準	※成績評価については、各方法が評価全体に占める割合(%)を示す 単位修得試験90% 課題提出 10%			
使用テキスト・教材	系統看護学講座 医学書院 臨床看護総論 成人看護学総論 呼吸器 消化器 循環器 内分泌・代謝 腎・泌尿器 成人看護技術 南江堂			
履修にあたっての留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・学習内容に該当するテキストを読んでおくこと。 ・授業内容の振り返りを行い、学びを深めること。 			
No	学習内容	学習方法	担当教員	担当教員名
1.	自己管理行動のための成人の健康教育 1) 生涯疾病コントロールを必要とする成人の特徴と看護	講義	専任講師	
2.	糖代謝障害のある成人の健康教育糖代謝障害のある成人患者の看護	講義	専任講師	
3.	糖代謝障害のある成人の健康教育糖代謝障害のある成人患者の看護	講義	専任講師	
4.	糖代謝障害のある成人の健康教育アセスメント	講義	専任講師	
5.	糖代謝障害のある成人の健康 看護計画	講義	専任講師	
6.	糖代謝障害のある成人の健康教育指導案、媒体作成	講義	専任講師	
7.	糖代謝障害のある成人の健康教育 指導発表	講義	専任講師	
8.	療養継続のための支援 1) 循環機能障害のある成人患者の生活指導	講義	専任講師	
9.	療養継続のための支援 1) 循環機能障害のある成人患者の生活指導	講義	専任講師	
10.	十二誘導の装着と異常心音の聴取	演習	専任講師	
11.	療養継続のための支援 2) 呼吸機能障害のある患者のアセスメントと援助	講義	専任講師	
12.	療養継続のための支援 3) 消化・吸収機能障害のある患者の援助	講義	専任講師	
13.	透析療法と生活調整の援助 腎不全看護	講義	兼任講師	
14.	透析療法と生活調整の援助 血液透析	講義	兼任講師	
15.	単位修得試験			
16.				

分野名	成人	科目名	成人看護学方法論Ⅳ	
単位数	1	授業時間数	30	
開講年次	2	開講期間	通年	
担当教員	兼任講師			
担当教員名				
目的	積極的な回復が望めない成人の看護を実施するために必要な基礎的知識・技術・態度を身につける。			
目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 積極的な回復が望めない成人の苦痛とQOLも維持に向けた援助の必要性を述べる。 2. 全身機能の低下に応じた緩和ケアのための援助方法を述べる。 3. 積極的な回復が望めない患者に応じたコミュニケーションを体験する。 4. 積極的な回復が望めない患者の役割・価値観を配慮し、尊重した態度を表現する。 			
成績評価の方法と基準	※成績評価については、各方法が評価全体に占める割合（％）を示す 単位修得試験 100％			
使用テキスト・教材	系統看護学講座 成人看護学総論 系統看護学講座 別冊 緩和ケア 系統看護学講座 別冊 がん看護学			
履修にあたっての留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・学習内容に該当するテキストを読んでおくこと。 ・授業内容の振り返りを行い、学びを深めること。 ・授業には積極的に参加すること。 			
No	学習内容	学習方法	担当教員	担当教員名
1.	1.緩和ケアの総論 DVD鑑賞	講義	兼任講師	
2.	2.トータルペインの特徴とスピリチュアルペイン	講義	兼任講師	
3.	3.心の揺らぎに対応するコミュニケーションとスピリチュアルケア	講義	兼任講師	
4.	4.症状マネジメント（主に疼痛） 鎮痛剤の活用と副作用への対応	講義	兼任講師	
5.	5.家族へのサポート（家族看護） がん患者の家族ケア	講義	兼任講師	
6.	6.全身状態の悪化に応じた看護 1)がん医療の現在と看護・がん病態と臨床経過	講義	兼任講師	
7.	2)がんの病態と臨床経過に伴う意思決定支援	講義	兼任講師	
8.	3)がんに合併する病態、がん患者の看護の特徴（トルソー症候群、キャンサーエマーゼンシー）	講義	兼任講師	
9.	4)がん患者のトータルペインに対するマネジメントと心理的サポート、アセスメント（ケア）援助	講義	兼任講師	
10.	5)がんの治療における看護 （1）薬物療法	講義	兼任講師	
11.	5)がんの治療における看護 （2）放射線療法	講義	兼任講師	
12.	5)がんの治療における看護 （3）がん治療における看護の重要性	講義	兼任講師	
13.	6)血液・造血機能障害の看護 （1）心身状態のアセスメント	講義	兼任講師	
14.	7)全身状態の悪化の看護 （1）症状悪化のアセスメントと援助	講義	兼任講師	
15.	単位修得試験		兼任講師	
16.				

分野名	成人	科目名	成人看護学方法論V	
単位数	1	授業時間数	30	
開講年次	2	開講期間	通年	
担当教員	専任講師			
担当教員名				
目的	健康障害をきたした成人の看護を実践するための基礎的知識・技術・態度を身につける。			
目標	1. 問題解決的アプローチを模擬事例で展開する。 2. 健康障害で学んだ技術を統合し、事例に応じた看護技術を実施する。 3. 成人期の患者を理解し、尊重した態度を表現する。			
成績評価の方法と基準	※成績評価については、各方法が評価全体に占める割合(%)を示す 課題100%			
使用テキスト・教材	・系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論 医学書院 ・成人看護学 成人看護技術 南江堂 ・看護過程を使ったヘンダーソン看護論の実際 ニューヴォルヒロカワ			
履修にあたっての留意点	・授業は積極的に参加すること。 ・課題は計画的にすすめていくこと。 ・演習の自主練習を計画的に行うこと。 ・演習時の身だしなみは規定に従うこと。			
No	学習内容	学習方法	担当教員	担当教員名
1.	看護過程 オリエンテーション 事例紹介	講義、DVD鑑賞	専任講師	
2.	看護過程 充足・未充足の判断	講義	専任講師	
3.	看護過程 アセスメントの情報	講義	専任講師	
4.	看護過程 アセスメントの情報	講義	専任講師	
5.	看護過程 看護計画	講義	専任講師	
6.	看護過程 経過記録	講義	専任講師	
7.	看護過程 看護計画結果・評価	講義	専任講師	
8.	手術患者の看護 術後の管理 アセスメント	演習	専任講師	
9.	手術患者の看護 術後の管理 アセスメント	演習	専任講師	
10.	手術患者の看護 術直後の観察 (全身状態の観察の仕方)	演習	専任講師	
11.	手術患者の看護 術前オリエンテーション(呼吸法・臍処置) 手術後のベッド作成(ベッド周囲の準備)	演習	専任講師	
12.	手術患者の看護 術後の寝衣交換(持続点滴中)	演習	専任講師	
13.	手術患者の看護 術後の早期離床	演習	専任講師	
14.	手術患者の看護 創傷治癒管理・弾性ストッキング(包帯法)	演習	専任講師	
15.	手術前後の血糖管理(血糖測定)	演習	専任講師	
16.				